

窓

— 同窓会だより —

No. 114 (令和 5. 2. 28発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



- 1面 同窓生寄稿
- 2面 同窓生寄稿
- 3面 同窓会総会、魚高祭
- 4面 魚高生の活躍、学校だより



“未来”の同窓生のみなさんへ

魚津市教育長 山瀬 敬 (魚高26回)

今年の冬は、十年に一度の強い寒気が日本列島を覆い、一日の最高気温が氷点下という日が続きました。県内小中学校の多くが休校の中、魚津高校の生徒はいつものように学校に向かって歩いていました。私が勤める市教育委員会の部屋からは、毎朝、毎夕生徒の姿を見ることが出来ます。楽しんで、どんな会話を交わしているのだろうか、ちよっとわくわくしながら想像しています。

このたび、同窓会誌の原稿の依頼をいただき、担当の方にお聞きしたところ、在校生にも全員配布されると伺い、後輩の皆さんに焦点をあてた内容にしたいと思えます。諸先輩方、お許しください。

時代の変化とともに、これまで社会を支えてきた組織や団体などは、その目的や意義、仕組みが変化してきていると思います。「同窓会」はどのようなのでしょうか。私はこう思います。同窓会は変わらないのではないかと。とても不思議な存在だと感じるからです。

同窓会は比較的参加しやすいお盆前後や夏休み中の開催が多いようです。懐かしい友と久しぶりに会うのは、本当にうれしく、話し始めれば、一瞬にして高校生の昔に戻ってしまうのですから。

同窓会、一人一人思いや経験、校種の違いによって、また、年代の違いもあり捉え方は様々のように感じますが、どこかで通じているように思うのです。

あえて、キーワードをあげると、『共通』『進化』『継続』でしょうか。

『共通』は、同じ校舎で学び、遊び、語り合った仲間、同じ「ふるさと」「若かった学生時代」という共通の思い出がある仲間。

『進化』は、卒業してからは、一人一人のかけがえない固有の人生。今までの生活や仕事の様子を語り合い、人生の歩みを振り返る。同窓生の話から自分の将来の成長に役立てるとともに、自分を再発見する、いきつけにさせる。

『継続』は、先輩や後輩を分け隔てなく、共通し共感できるものを基礎に、未来を論じ、お互いに手を携えて今後とも変わらない関係と、よりよい関係を築き、さらに発展し継続していくことである。

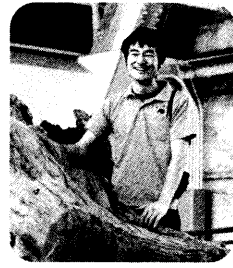
『同窓会』は、過去を振り返るといふより、『共通』の基盤の上に、さらに『進化』し、『継続』していく組織であり、機会であると思えます。

社会を取り巻く状況は、だれ一人取り残さないとするSDGs(持続可能な開発目標)など地球規模の課題から自分が住む地域の課題まで、さまざまな課題が山積しています。いずれの課題の解決も絶対的解答はないのかもしれませんが、必ず未来につながっていきます。

未来の同窓生となるみなさんには、周りに流されず、自分のこととして一歩前に出て考えていく、「ちよっと、違うように思います」と自分の意見をしっかりと伝える、そんな人になって欲しいと願っています。

喜見の城影を謳って

佐藤 真樹 (魚高56回)



校歌にある「喜見の城影」が蜃気楼を指すことは、みなさんよくご存じだと思えます。しかし、蜃気楼を喜見の城影や喜見城と呼ぶ由来を知る人は少ないかもしれません。

加賀藩主前田綱紀が蜃気楼を「喜見城」と呼ぶようにとしたと『魚津古今記』にあり、その起源とさ

喜見城は帝釈天たいしゃくてんの居城、須弥山しゆみせんにあるとされます。須弥山は、『北斎漫画』にも描かれる様に、反転した山の様な形をしているとされます。須弥山の形は、現在も見られる山並みが上に反転してみえる蜃気楼(写真参照)に、確かに似ていると思われませんか。

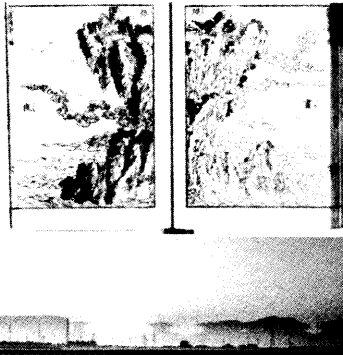
一方で、喜見城はサンスクリット語のスタルシャンが語源とされ、スタルシャンには「姿が良い、美しい」といった意味があります。このスタルシャンに当てられた喜見城という語にも、同様に良いことを指すイメージがあります。

また、魚津では、春に晴天が続く、雨になる前の日に蜃気楼が見えるという経験則があります。江戸時代においても、蜃気楼が見えた後は天気が崩れたことが日記の記述からわかっています。「百穀を潤す春に降る雨」という意味では、蜃気楼の後に降る雨は、米どころ富山では吉兆を表すものだったのかもしれない。

綱紀が、見た目の形からか、恵の雨をもたらすからか、またはそれ以外の理由からか、蜃気楼を「喜見城」と呼ぶことにした理由は、定かではありません。しかし、蜃気楼に特定の名前をつけ親しんでいたことには間違いありません。

喜見城のほかにも「狐の松原」などさまざまな呼び方をされてきた魚津の蜃気楼。現在、光学分野では上位蜃気楼と下位蜃気楼に分けられています。富山ではそれぞれ「春の(春型)蜃気楼」、「冬の(冬型)蜃気楼」と親しみをもって、区別し、呼んできました。

地域で長く注目してきた自然現象、蜃気楼に、特有の名前を与え親しむ。地域の素敵な歴史のなかにある「喜見の城影」を、再び声に出して謳ってみると、さらに親しみが湧くのではないのでしょうか。



『北斎漫画』より 山並みの蜃気楼

笑顔を大切に

丸田 幸歩 (魚高70回)



魚津高校を卒業し、もうすぐ5年が経とうとしています。

私は昨年の4月から助産師として勤務しています。高校卒業後に埼玉県の大学に進学し、卒業を機に4年ぶりに富山に戻り、約1年の日々を過ごしてきました。新社会人として、助産師として初めて過ごす日々は想像以上に大変で、何度も挫けそうになりました。

しかし職場の先輩方や同期、家族や友人に支えていただき、大変ながらも心身ともに充実した日々を送っています。

今回寄稿文の依頼をいただき、高校時代を振り返ってみると、まず思い出すのは部活動についてです。私は3年間、吹奏楽部に所属していました。吹奏楽部は練習も多く、自身の力不足ゆえに思うように演奏することができなかつたり、学業との両立などにおいても高校生の頃は沢山悩んだりしました。しかし友人やパートのメンバーに恵まれたこともあり、悩むことはあっても毎日笑顔で、楽しく高校生活を送ることができました。

助産師になると決めたのも高校生の時でした。今、高校の頃の夢を叶え、少しずつではありますが前に進むことができている。思うようにできず悔しく思ったり、悩んだりすることも多くありますが、生命の誕生の瞬間や、ママと赤ちゃんの新たな日々のスタートなどをサポートさせていただけると日々やりがいを感じています。

高校の頃も今も、私は笑顔でいるということを大切にしています。落ち込むこともありませんが、信頼できる人に相談し、気持ちを切り替えて笑顔でいるようにすれば、前向きな気持ちで前に進むことができます。周りの人を笑顔にしたりすることができるようになります。笑顔が増えることでより毎日を楽しく、充実して送ることができると思っています。これからは笑顔と周囲の人への感謝の気持ちを忘れずに日々を歩んでいきたいです。

令和4年度魚津高校同窓会総会

同窓会幹事長 澤崎 豊(魚高33回)



同窓会総会 会長挨拶

昨年は、令和4年度の同窓会総会・講演会を3年ぶりに開催する事ができました。思えば2019年の同窓会総会がコロナ蔓延前の最後でした。

今回の開催にあたりまして、役員会においてコロナのステージによって総会・講演会のビデオライブ配信のみの開催、実際に会場に集まるとの総会・講演会、懇親会も開催したパターンなど準備をしておりました。幹事学年の皆様には、最後までご心配おかけしました。誠に申し訳なく思っております。本当にお世話になりました。

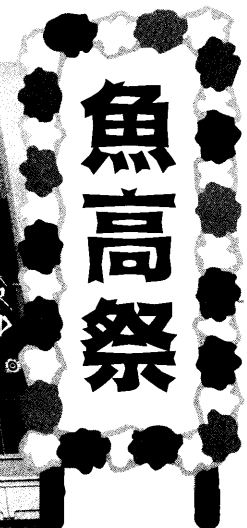
開催予定時期が、ちょうど新型コロナウイルスの「第7波」が終わった時期にあたり、懇親会も含めたフルスペックで開催する事はできませんでしたが、特別講師に35回生の上田英俊代議士を迎える事ができました。当日は、初の試みのライブリモート配信の挑戦しました。同窓会HP担当の33回生の古川さんやNICETテレビの44回生の松岡さんの頑張りで上田さんの講演を配信する事ができました。感謝申し上げます。

さて、同窓会の活性化について大田会長からは、いつも新しい事に挑戦するように発破をかけられております。今回のリモート配信について成果の検討は十分していませんが、まずは新しいスタイルとして試行、試みの一つとして、成功であったと思っております。またもう一つ、新たな試みとして同窓会ホームページに「同窓生リレートーク」をアップしてあります。タモリの人気番組だった「笑っていいとも」のテレホンショッキングを模したリレートークになっていきます。1回目は、33回生の中崎さんでした。2回目は中崎さんからの紹介で35回生の下根さん。現在はこちらまでですが、同窓生の輪の広がりを作ってホームページが同窓生の情報発信や交流の場になるようアップデートを図っていきたく思っております。



リレートーク
第1回 中崎健志さん(33回生)

3年に一度の魚高祭が9月22日から2日間開催されました。コロナ禍のため、敷地内での飲食は不可(食品の販売は可)等さまざまな制限の中、生徒・教職員一丸となって感染症対策に取り組みながらの開催となりました。困難な状況下ではありましたが、魚高生全員が力を結集し、地域や保護者のみなさんが楽しめる企画やステージプログラムが数多く用意され、大盛況のうちに終えることができました。



魚高祭



「学校だより」F
ED A E C F A E
海外代替研修

新型コロナウイルス蔓延により海外研修ができず、その代替として「東京グローバルゲートウェイ(TGG)国内留学プログラム」が、12月8日から3日間の日程で実施されました。魚津高校では初の試みで、生徒は同窓会の「紅奨学基金」から補助を受けての参加となりました。参加者は1・2年生あわせて15名、吉田先生と森先生が同行されました。内容は、ニュース番組の制作やマーケティング、スピーチのテクニックやSDGs、おもてなし文化の紹介方法など、多岐の分野を実践的に学べる環境とプログラムが設定されていました。3日目には生徒も雰囲気慣れ、積極的に英語を話す姿が見られました。

今回の研修で、生徒は英語でのスピーチや国際交流の機会を得て異文化理解を深め、日本にいながら海外へ視野を広げることができました。この経験を活かし、大きな夢をもって、グローバル社会で活躍する魚高生が増えることでしょう。

魚高生の活躍 (令和4年8月～令和5年1月)

○カヌー競技

- 令和4年度日本カヌースプリント ジュニア選手権大会

女子カヤックフォア200m	1位	晴披 葵	2-3
女子カヤックフォア500m	2位	晴披 葵	2-3
女子カヤックペア200m	3位	晴披 葵	2-3
女子カヤックシングル200m	5位	晴披 葵	2-3
- ・上市町栄誉表彰 晴披 葵 2-3
- ・富山県優良体育・スポーツ活動推進者表彰 晴披 葵 2-3
- ・第77回国民体育大会

少年女子カヤックペア200m	3位	晴披 葵	2-3
少年女子カヤックペア500m	6位	晴披 葵	2-3
- 日本カヌースプリントジュニア・ジュニアユース 小松大会

少年女子カヤックペア500m	1位	晴披 葵	2-3
少年女子カヤックシングル1000m	3位	晴披 葵	2-3

○陸上競技

- ・富山県高等学校新人陸上競技対校選手権大会

共通男子砲丸投	1位	高山晋太郎	2-4
共通男子円盤投	7位	高山晋太郎	2-4
共通男子走幅跳	1位	村井 春樹	1-4
	3位	稲葉隼之介	2-2
- 男子フィールドの部 3位

○女子ソフトテニス部

- ・令和4年度富山県ジュニアソフトテニス選手権大会

個人戦 Bリーグ	1位	梅木 圭衣	1-2
		新村萌乃佳	1-2

○剣道部

- ・新川地区高等学校総合体育大会剣道競技

女子個人	1位	平野 乙葉	2-3
女子団体	1位		

○女子ソフトボール部

- ・第41回富山県高等学校新人大会 ソフトボール競技 3位

○吹奏楽部

- ・第50回富山県吹奏楽コンクール 金賞

- ・第3回JBA管打楽器ソロコンテスト 富山県大会

高校生の部	金賞	富山県代表並びに奨励賞
-------	----	-------------
- ・第39回管打楽器ソロコンテスト北陸大会

高校生の部	金賞	深井あいか 3-4
-------	----	-----------
- ・第44回富山県アンサンブルコンテスト新川地区大会

クラリネット四重奏	金賞	地区代表
打楽器三重奏	金賞	地区代表
- ・第57回富山県アンサンブルコンテスト富山県大会

クラリネット四重奏	銀賞	
打楽器三重奏	銀賞	

○将棋部

- ・第33回富山県高等学校将棋選手権大会

男子個人戦	優勝	館 知太郎	2-1
	3位	米山 蓮	2-2

○囲碁

- ・第48回秋季囲碁大会

男子個人戦	準優勝	永田 大和	2-1
男子団体戦	優勝	永田 大和	2-1
		米田 有佑	2-1
		橘 奏成	2-3
		米山 蓮	2-2

○とやま科学オリンピック2022 銅賞

- ・第34回富山県高等学校文化祭

短歌部門	優秀賞	舟田 笑	2-2
	佳作	出村南由汰	2-4
	佳作	濱住 悠至	1-1
	佳作	藤橋 悠里	1-3

○第47回富山県青少年美術展

- 書部門

優秀賞	永田 大和	2-1
佳作	池田 華乃	2-4
入選	網谷 咲希	3-2
入選	中村 結香	3-3
入選	飯田 真琳	2-2

○第17回黒部市美術展

- 市展奨励賞 永田 大和 2-1

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか？自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。

富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://uozu-dosokai.net/>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>